

人生のハンドルは自分の手で

高崎市立高南中学校

三年 高橋 七海

皆さんは、日常生活の中で、どのようにA Iを使っていきますか。A Iは質問をするすぐに答えてくれて、勉強や調べ物にも便利です。悩みを話せば、自分を否定せず安心させてくれます。しかし私は、A Iに依存する生活はしたくないと思っています。A Iは確かに便利ですが、最後まで責任をとってはくれません。その回答に厳しさが無い分、相談者は自分にとって楽な答えを選びたくなります。そして、失敗から学ぶという大切な機会まで失ってしまうかもしれません。

私にそう気づかせてくれた出来事がありました。それは、八月に入ったばかりのことです。

「おい、七海。お前、今日部活あるんじゃないのか。友達呼びにきてるぞ。」

私は父の声で飛び起きました。友達は、私が約束の時間を過ぎても待ち合わせ場所に現れないことを心配し、家まで来てくれたのです。私は、頭の中が真っ白になってしまいました。父は、「約束をなんだと思っているんだ。もっと、人との関わりを大切にしろ。」と私を叱りました。

「やってしまった。本当に申し訳なかった。」

その日は一日中、心がザワザワして落ち着かず、自分が情けない気持ちでいっぱいでした。夜、寝坊したことについて、もう一度父から話がありました。私の普段の生活の乱れや時間の使い方が今日の失敗に結びついていくときつく叱られました。私は正直、とても反省していたのにそれが父に伝わっていないことに腹が立ちました。また、今日の失敗に関係ないことについても指摘され納得できませんでした。私は、なんとも言えないモヤモヤした気持ちをA Iに聞いてもらいました。するとA Iは、「あなたが反省しなければいけないところもあるけれど、お父さんの言い方も悪かったかもしれない。」と私を気遣う言葉をくれました。私は、その言葉を聞いて少し安心

しました。しかし、その日ベッドの中で思い出したのは、暑い中、汗をかきながら私を待っている友達の姿でした。

私は、もう一度父の言葉を思い返してみました。一見、関係ないことまで叱られていると感じたけれど、今回の失敗は父の言うとおり、日々の生活の乱れから起きたものだと思います。父は、今までの私を見ながら、これからの私を想って叱ってくれたのです。AIは、私を慰めてくれました。しかし、本当に大切なことを教えてくれたのは、友達と父でした。この学びは一生忘れないと思います。

もう一つ、AIについて考えさせられた出来事があります。「亡くなった人の写真や動画をもとに、その人が生きてるように話す映像をAIで作り出す技術がある」と、ネットニュースで取り上げられていました。私の祖父は、四年前に亡くなりました。祖母は、今でもよく祖父の話をします。

「一年に一回くらい、おじいさんと電話で話せたらいいのね。」

それが祖母の口癖です。私は祖母に言いました。

「このAIサービスを使えば、おじいちゃんとまた話せるかもしれないよ。」

すると、祖母は笑って言いました。

「いらないよ。声が聞けたらもちろん嬉しいけど、おじいさんの声はちゃんと覚えてるからね。」

私はその言葉を聞いて、はっとさせられました。祖母の中には、祖父の笑った顔や話し方、一緒に過ごしてきた思い出が今もちゃんと残っています。だからこそ、祖母はAIが作った姿ではなく、共に過ごしてきた祖父を大切にしたいのだと思いました。人との繋がりや思い出は、AIでは作り出せないのです。

AIは、これからますます身近な存在になると思います。便利になる反面、AIに依存し、自分の物事の判断を安易に委ねてしまう傾向が強まるかもしれません。だからこそ、大切な決断は自分でする、人生のハンドルは自分で握る、そんな強い信念が大切なのだと思います。

皆さんも、私と一緒に始めてみませんか。人との繋がりを大切にしながら、自分で考え、自分の足で歩いていく人生を。